

## ～現地実証試験～

# 肥育全期間に粉碎米を代替給与しても豚の発育は変わらない

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

### 1 部門名

畜産－豚－畜産栄養

### 2 担当者

京谷隆侍、門屋義勝、若井菜の子、佐藤亮一

### 3 要旨

飼料自給率の向上ならびに養豚経営の安定化を図るため、飼料用米(粉碎米)の給与技術の開発に取り組んでいる。平成24年度では、トウモロコシの代替で粉碎米を30%配合した飼料(粉碎米30%配合飼料)を肥育全期間(体重30-110kg時)に給与しても、豚の発育は良好であることを明らかにした。今年度は、養豚農家においても同様に肥育可能であるのか検討した。さらに、そのときの豚肉の官能特性についても検討した。

- (1) 対照区は慣行飼料と同様のトウモロコシ主体飼料を、粉碎米区は粉碎米30%配合飼料をそれぞれ肥育全期間に給与した。なお、飼料原料は全て粒径5mm未満に粉碎した。
- (2) 一日増体量および肥育日数は、試験区間に差はなかった(表1)。
- (3) 枝肉歩留まりは対照区に比べて粉碎米区で低かったが、他の枝肉成績に差はなかった(表2)。
- (4) 試験期間中に要した1頭当たりの飼料費は、対照区(25,796円)に比べて粉碎米区(21,830円)で低かった。
- (5) ロースの肉色、加熱損失、剪断力値および筋肉内脂肪含量は試験区間に差はなかった。

- (6) 官能評価の結果、粉碎米区に比べて対照区の方がかみ切りやすい豚肉で、食感が好まれた(図1)。また、対照区に比べて粉碎米区の方が、さっぱりした豚肉、香りが強い豚肉である可能性が示唆された(図1)。

以上から、養豚農家においても、粉碎米30%配合飼料を肥育全期間に給与可能であると考えられた。

表2. 枝肉成績

	対照区	粉碎米区	有意差
枝肉重量(kg)	73.3	70.3	NS
枝肉歩留まり(%)	63.0	62.1	P<0.05
と体長(cm)	92.9	92.5	NS
と体幅(cm)	34.9	34.3	NS
ロース芯断面積(cm <sup>2</sup> )	23.9	22.3	NS
背脂肪厚(背)(cm)	1.70	1.70	NS
上物率	4/8	4/8	

n=8. NS:有意差なし。

### 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成22年度～26年度
- (2) 研究課題名 粉碎米等飼料用米を活用した肥育豚の飼養管理技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

### 5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度～25年度センター試験成績概要

表1. 飼養成績

	対照区	粉碎米区	有意差
一日増体量(kg/日)	0.90	0.87	NS
飼料摂取量(kg/日) <sup>(1)</sup>	2.74	2.79	
飼料要求率 <sup>(2)</sup>	3.05	3.21	
肥育日数(日)	95.4	93.6	NS

(1)(2) 各豚房の平均値. n=8. NS: 有意差なし.

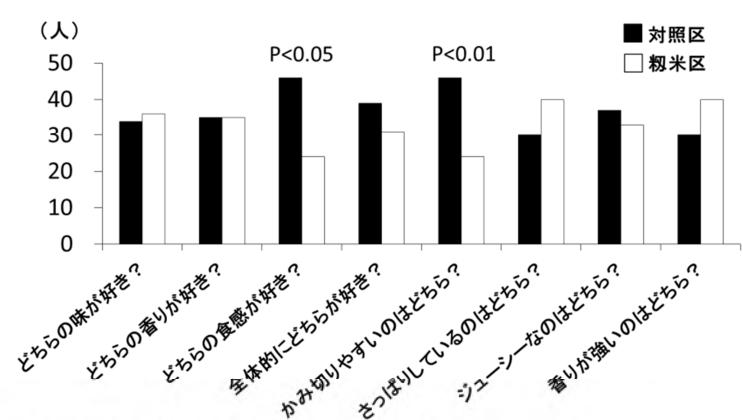


図1. 2点比較法による官能評価(n=70)